

整理番号	該当箇所 (第1回資料)	該当箇所 (第2回資料)	意見	対応方針
1	P11	P11-12 P21	「歴史的な景観」に対して内容があっさりし過ぎているので、もう少し入れてほしい。駅前には「桜井の別れ」の像もあるし、そのようなシーンを捉えて外向けに発信していくことも重要。	<ul style="list-style-type: none"> ・「歴史」の後に史跡・文化財等の分布図を追加します。(P11-12) ・「(9) 景観資源」のところに、観光マップ等を材料として景観資源図を追加します。(P21)
2	P11	P11-12	魅力ある建物や文化財とか、後世に残した方がいい景観を含めた建物的な案内のページがあってもいいのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史と市街化履歴は一連の流れで記載します。「(3) 歴史」→「(4) 市街化履歴」→「(5) 文化」→「(6) 人口」の順番)
3	P19	P21-22 P54	「平成 24 年に実施したワークショップ」とありますが、どのワークショップなのかが分からない。その目的、班分けが単なるグループ分けなのか分からない。また「景観資源」と定義づけられたのは何故なのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップは、参考情報として掲載し、実施概要を追加します。(P21-22) ・景観資源の保全策の例は第7章(4)に記載します。(P54)
4	P19	P20-21 P54	P19に3つの班が10個ずつ景観資源を挙げているが、これは10年前のデータで、すでにはないものもいくつかある。それが載っているのも違和感があるし、残してほしいものと、都市計画で残せないものとの兼ね合いもある。どのように取り組んでいけばいいか。	
5	P19	P16 P25-33 ほか	季節の概念もどこかに入れていただくといい。写真の選定の時にフォローされてはいいかがか。	<ul style="list-style-type: none"> ・景観の構造として、新たに「(6) 文化」を加え、季節ごとのイベントや風景を追加します。(P16) ・類型別の景観のなかの写真や解説文等に追加します。(P25-33) <p>→季節の写真候補 春：水無瀬川の桜 夏：尺代や高浜の田園、山並みの新緑 秋：若山神社の紅葉 冬：水無瀬川と山並みの雪 など</p>
6	P20-30	P25-33	「奥山の景観」、「山並みの景観」は近景、中景、遠景という視点で特徴が異なる。景観資源、景観要素という言葉があったが、組み合わせ方が景観の特性ではないか。点と点の組み合わせもあるし、川と建物のように線と点の組み合わせや、山並みになると少し面的な広がりがある。その辺りをもう少し細かく反映していくと、島本らしさを表現できるのでは。	<ul style="list-style-type: none"> ・近景・中景の見え方の違いを詳しく記載します。 ・山に囲まれている奥山の景観と山並みの景観との違いがわかるように、大沢の集落を切るような視点の断面図に修正します。写真選定もその特徴がわかるよう、大沢の集落の写真を追加します。 ・類型別の景観のなかを示している写真に、景観の構造(近・中・遠、点・線・面)を加味した解説を付けます。

整理番号	該当箇所 (第1回資料)	該当箇所 (第2回資料)	意見	対応方針
7	P26	P13-14	名神高速道路、新幹線、阪急線があって、いろいろな交通の線が集まっていますので、そういう国土軸の景観という視点も必要。171号線沿いの景観だけではなく、もっと大きな軸線があるということで、その周りの景観をどうするかということも検討が必要。	・「市街化履歴」のなかで広域につながるまちであることを記載します。
8	P46	P49	「住みよさが評価されている一方で、景観に対する変化も認識されています。」とあるが、これは「景観に対する意識の変化」という理解か。それとも、景観自体が変化していることを認識しているという意味か。	・アンケート調査結果から、住民の意識として景観に対する変化が大きいと感じられていることを補足します。
9	P48	P30-31	住宅地の「住みよい景観」という切り口は共感できるが、もう少し島本らしさを出すのであれば、一言で「住宅地」と言ってもいろいろな時代にいろいろな開発のされ方があり、あるいは個別に開発したもの等、様々なバリエーションがあるので、そういうまちのでき方のようなものを整理するとよいのでは。	・類型別の解説のなかの「住宅地の景観」の中で住宅地のタイプに年代的要素を加味したキャプションや説明を付けます。(昭和30年代土地区画整理事業により開発された阪急A地区の住宅、近年グラウンド跡地に建てられた戸建て住宅と集合住宅など)
10	P48	P48-50	最後の分析のところで、自然やまちなみについては書いてあるが、歴史的なものをどう守って、育てて、発信していくかということがどこにも記載されていないので、その辺りが要るのでは。	・課題(1)や課題(3)に補強します。歴史的な経緯による景観の特徴の違い、河川は生活文化として根づくものであることなどを記載します。
11	P48-49	P51-52	タイトルに「形成」と書かれながら、下の文章を見ると「維持」というニュアンスがある。加えて景観の「創造」というところをバランス良くやっていく必要がある。 活動という目線も、若い世代を踏まえる必要。	・景観形成の方針①を「市街地の成り立ちや特性を踏まえた良好な住環境の維持と景観形成」と修正します。 ・活動は④のなかで記載しています。
12	-	P10	竹林が放置されているとか、ナラ枯れが発生していると伺った。そういう状態や、今どのように保全されているのか等、そういうこともこの計画を通じて皆さんに知ってもらおうとなると、より愛着が湧くのでは。	・担当課に確認したところ、平成28年度、森林組合に駆除を依頼し、現在は被害報告が無くなっております。